

令和元年度 中央地域包括支援センター自己評価報告書

		包括情報	
自己評価実施日	令和元年12月18日	法人名	医療法人 王子総合病院
行政評価実施日	令和2年1月24日	責任者	高木 英克
運営協議会開催日	令和2年3月24日	所在地	苫小牧市若草町3丁目4番8号
		連絡先	0144-36-3712

地域情報	
担当地区	旭町、一本松町、入船町、王子町、大町、表町、春日町、木場町、寿町、幸町、栄町、汐見町、清水町、新中野町、末広町、錦町、晴海町、船見町、本町、本幸町、緑町、港町、元中野町、若草町
高齢者人口	6,052 人(R1.10.1現在)
高齢化率	29.1 %(R1.10.1現在)
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の中心部で、交通の便もよく公共施設はあるが、スーパーなど買い物場所が少ない。</li> <li>・低所得者の多い市営住宅と戸建てやマンションなどが混在する地域(市営住宅の取り壊しにより住居変更した人も多い)</li> <li>・新旧アパートも多く入居者の入れ替わりもあり、なかなか地域活動に結びつかない地域もある。</li> <li>・医療機関が多く通院などの便利は良く、多種の施設もあるが、サービス付き高齢者住宅や共同住宅などは少ない。</li> </ul>

職員体制(R1.12.31現在)			
○職種		○雇用形態	
保健師または看護師	1 人	常勤職員	4 人
主任介護支援専門員	1 人	非常勤職員	2 人
社会福祉士	1 人		
その他	3 人	○常勤職員の平均勤務年数	
		平均	6.3年

総合評価	
自己評価	行政評価
慢性的な職員不足が続いているため、新たな取り組みには至っていない。 地域包括支援センターに求められている役割が変化している中、地域づくりや他機関と連携するにも時間と労力が必要であり、個別ケース対応に追われている現状では、積極的な地域展開に至らないのが現状。	3職種の専門性をふまえ、個別ケースの対応や様々な関係機関と密に支援展開をしている。また数年にわたり、地域課題としてペット問題をとりあげ、地域ケア会議等で課題の共有や対策について協議し、地域展開に向けて取り組まれている。今後も地域特性を活かし具現化に向けた取り組みに期待する。

評価項目		
1 運営体制		
	(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている	
	(2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している	
	(3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている	
	(4)個人情報含む記録物を適切に保管している	
	(5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している	
	(6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている	
	(7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている	
	(8)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りがない(占有率50%)未満	
	(9)相談・面談室のプライバシーが確保されている	
	(10)休日・夜間の連絡体制が整備されている	
	自己評価	行政評価
特記事項	(2)毎日実施しているも、定期的なカンファレンスは行えていない。 (7)職員を募集しても応募がなく、慢性的な人手不足が続いている。	職員全体で事業計画の作成・評価、自己評価などに取り組み、日々の業務も職員間で情報共有し意思統一を図り業務を遂行している。また市内外の研修にも積極的に参加し、支援の質向上に取り組んでいる。
2 共通の支援基盤構築		
	(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている	
	(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている	
	(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている	
	自己評価	行政評価
特記事項	(2)(3)日常的には行っているものの、積極的な開発に向けた取り組みは行えていない。	地域ケア会議や日頃の地域住民との関わりを通じて、地域のニーズの把握や実態把握を行えている。今後も地域特性を生かし、具現化に向けた取り組みを期待する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている		
(2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
特記事項	自己評価	行政評価
	職員間で協議しながら効果的な対応に努めている。また、未処理ケースが出ないように情報を共有している。	多問題ケースが多い中、職員間で情報共有し、3職種の専門性を踏まえて、速やかかつ丁寧な対応ができていると評価する。今後も人員体制が難しい中、職員間で協力しながら対応していくことを期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
特記事項	自己評価	行政評価
	ケアマネジャーの課題解決能力の向上や質の向上に向けた地域ケア会議(ケアマネ会)を定期的に開催している。他団体とも共同し、研修会を企画開催している。	地域包括支援センターが地域のサービス提供体制を支える中核的な存在であることを意識し、関係機関や専門職との連携、および地域の各機関・事業所の資質向上を意識した対応を行っている。また介護支援専門員の資質向上のため、研修の企画段階から介護支援専門員と協力し取り組んでいる。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	個々の状況にあった支援に努め、介護保険外サービスも組み入れながら予防に努めている。	介護サービスにとどまらず、介護保険外のサービス活用を活用し、利用者の介護予防の務めた支援を行えている。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	新しい資源として寺院での講座の開催などに取り組んだ。 認知症初期集中支援が必要な人の選定も職員間で協議し繋げるよう努めた。	初期集中支援チームを積極的に活用し、支援策を検討し取り組まれている。また認知症地域支援推進員と連携を図り、地域ケア会議参加者の認知症理解を深めたり、新たに寺院と連携し認知症サポーター養成講座展開・地域のネットワークづくりに取り組まれている。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	法人内や職能団体とのネットワークを活用し、スムーズな連携が図れるよう努めている。	医療機関、介護事業所とのスムーズかつ速やかな連携が図られている。医療関係者を地域ケア会議に招くなど意識している。

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている		
特 記 事 項	自己評価	行政評価
	地域で共通する課題を圏域内の全ての町内会で地域ケア会議を行い、各地域の地域特性などの把握に努めた。	数年にわたり、地域課題としてペット問題に着目し、地域ケア圏域会議で課題の共有や対策について協議し、政策提言に繋げるために取り組みされている。今後も生活支援コーディネーターと連携し地域特性を活かした地域づくりを進めていくことを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特 記 事 項	自己評価	行政評価
	介護予防教室で講話を継続して行い、意識づけを図っている。	介護予防教室全体で参加者同士がお互いを見守るような教室展開に繋がっている。介護予防教室担当者が介護予防に必要な情報の普及啓発・対象者の心身の状況等を把握し、評価後のフォローも行えている。今後地域に向けて出前講座等にも積極的に協力するよう期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容
共通の地域課題について、圏域の全地域で地域ケア会議を行い、地域と関係機関の役割などが理解できるよう働きかけた。
2 今年度事業の達成状況及び成果
地域ケア圏域会議は計画的に行い地域の共通課題を住民、関係機関、行政等とで共有できるよう努めた。 認知症初期集中支援、地域ケア個別会議は、必要ケースの検討を行い実施しているが、予定件数に達していない。
3 達成できた又は達成できなかった原因
職員不足により全ての業務が兼務になるため、地域包括支援センターが求められている多様化する業務に適応できない状況が続いている。
4 課題及び今後の取組み
地域包括支援センターの役割の変化から、全体的な業務の見直しが必要なため、市内全体としての方向付けと一包括ができる範囲を模索していかなければならないと考えている。